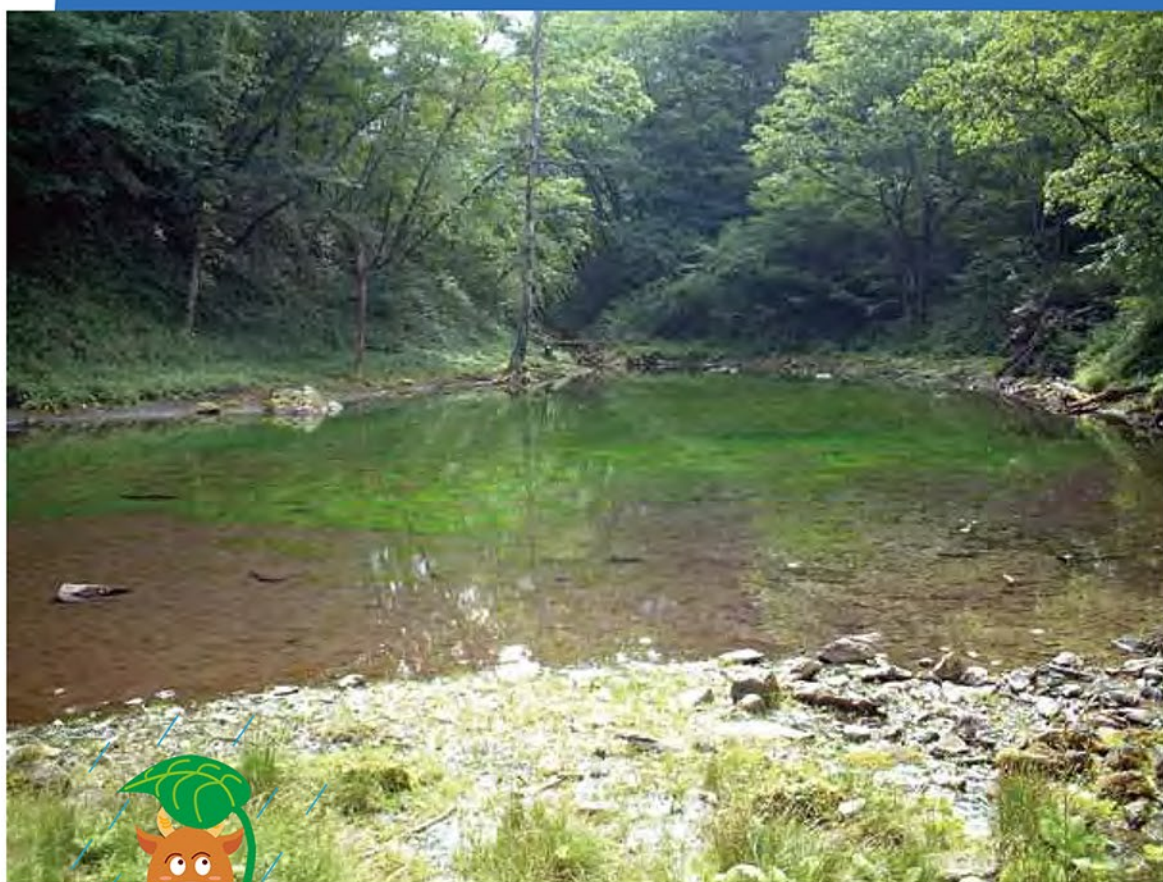


牛と雨乞い

能蔵池・大笹池・白根御池



大笹池(大嵐) 原七郷の村々の雨乞いの場所。山の木々に囲まれた池には神秘的な雰囲気漂う。



前号では八田御牧と市内各地で発見された牛馬、そして甲斐源氏とのつながりをご紹介しましたが、今月は牛と雨乞いに注目してみます。

御勅使川扇状地は「お月夜でも焼ける」と例えられるほど乾燥した地域であったため、大正時代ごろまで雨乞いが行われていました。実は、この雨乞いと牛馬は深く結びついていて、歴史をひもとけば、『日本書紀』の642年7月の条には日照りが続いたため雨乞いのため牛馬を殺して諸社の神を祀ったとあります。百々遺跡の土坑などから発見された牛や馬も雨乞いの供物として捧げられたものかもしれません。

とりわけ牛は雨乞いに欠かせない動物でした。牛と雨(水)に密接な関わりがあるという考え方は、現代の私たちには不思議にも思えますが、地域の伝承からも両者の強いつながりが見えてきます。たとえば野牛島の伝承では、能蔵池に赤牛の神さまが住み、村人にお椀やお膳を貸してくれたり、干ばつの時には雨を降らせてくれたりしたといわれています。しかし、赤牛さまはお椀やお膳を返さない不心得者が現れるとそのことに怒り、能蔵池を出て甘利山のふもとにさわら池に移り、さらに奥の大笹池へ移り住んだと伝えられます。この大笹池は、原七郷の人々の雨乞いの舞台でもありました。日照りが続く、まず村の寺社や榎原の古寺長谷寺で雨乞いが行われましたが、それでも雨が降らなければ行列を組んで大笹

白根御池(芦安)
雨を降らせる龍神が主であるとも、能蔵池の赤牛が住むとも伝えられる。



能蔵池(野牛島)

お椀やお膳を貸してくれる赤牛さまが住み、かつて雨乞いが行われていたと伝えられる。



ふるさと文化伝承館エントランス展 「市内に広がるウシ・ウマの足跡」

八田御牧と深く関係した集落跡、百々遺跡の貴重な出土遺物を展示しています。百々遺跡から出土した馬の歯も展示中！馬の信仰を集めた古刹長谷寺の馬のお守り札の刷り体験もできます。



■期間 8月1日(水)まで ■入館料 無料
■時間 9:30~16:30 ■休館日 毎週木曜日

お問合せ/ふるさと文化伝承館 TEL(282)7408

池まで行き、池を汚す、踊る、念仏を唱えるなどの雨乞いを行ったという証言が残されています。さらに山奥の北岳のふもとにある白根御池も原七郷の人々の雨乞いの場で、干ばつの時には白根御池まで登り、持参した牛の皮や牛の首をその池に投げ入れて龍神の怒りをかい、それによって雨を降らせようとしたといわれています。白根御池の主は龍神と伝えられていますが、能蔵池の赤牛だとも言われていたという興味深い記録も残されています。

こうして見ると牛は、雨を司る神であると同時に雨を降らせるための供物でもあったといえます。人々は、日照りの時もこんこんと水が湧き出る池に霊験を感じ、古くから雨をもたらすと信じられてきた牛と結びつけることによって、干ばつという危機的な状況を克服しようとしたのでしょう。牛と雨乞いを語る伝承には、切実に水を求め続けてきた先人たちの姿が秘められているのです。